

# 風"s・風のたよりオンライン版

---

2012/2/7 No.175

---

## 風のたより175号

2月11日の風"sのフェアトレード・デーは、風"sのフェアトレード・チョコセット、500円以上お買い上げの方に、風"sのフェアトレード産品を10%引きで買えるチケットをお渡しします。（翌日から3ヶ月有効）

どれだけの人が事実を知ったら変えられるのでしょうか？ この児童労働の問題を。

まだまだまだ、まだ知らない人が多いのか、知っても知らないふりしているのか、我が身、我が子とは関係ないと思っているのでしょうか？

もう何年もこのバレンタインデーに伝えようとしている「児童労働の問題」それは貧困からくる問題。それを解決しようという一つの方法がフェアトレード。

そのフェアトレードをみんなに知って欲しいと思う運動がフェアトレード・タウン運動

■ 1月25日朝日新聞夕刊に掲載されました

安城市役所と、名古屋市役所西庁舎地下売店、ウィルあいち1階フェアトレード・ショップでのフェアトレード・チョコの販売が紹介されました。

# チョコっと途上国支援

## バレンタイン向け♡形も

2月14日はバレンタインデー。最近では「地球にも人にもやさしい」チョコレートが話題になる。途上国の自立を支える「フェアトレード」の仕組みから生まれたチョコレートだ。

### フェアトレード原料で生産

愛知県安城市役所の食堂。けの限定発売だ。チョコレートの原料カカオの産地は途上国が多い。生産農家が安く買いたたかれたり、農園で子どもが働かされたりという実態が問題になっている。職員や来庁者が購入し、1日平均30〜40枚も売れている。「チョコを食べることが途上国の支援につながる」と販売を企画。約10種類を販売している。

### フェアトレード

「公平な貿易」という意味で、社会的・経済的に立場の弱い途上国の生産者たちに仕事の機会をつくり、公正な対価を支払うことで自立を支援する貿易の仕組み。



売店に並ぶフェアトレードのチョコレート  
＝愛知県安城市役所内

## 児童労働考える催し

チョコを通じて、生産現場の問題を考える取り組みもある。名古屋市長のオアシス21のレストラン「サオナ・パール」で2月4日、イベント「フェアトレードで世界に愛を」が開かれる。カカオの粉を味わってその善みを感じたり、フェアトレードのチョコレートと大衆生産のものを食べ比べたりする。フェアトレードによるコーヒーや紅茶も飲みながら参加者同士がその問題について話し合う。講師を務める「名古屋フェアトレード・タウン」にしよう会代表の土井ゆきさん(仮)は「私たちは選べることで世界を変えることができる。それをチョコレートから知って欲しい」と話している。

した市人課の阿部拓朗さん。販売は1月末までの予定で、バレンタインデーに合わせて、希望者にはフレゼント用の包装もしている。フェアトレードの食品や土産品など約10種類を扱う「風が(ふうず)」(名古屋市長のオアシス21のレストラン「サオナ・パール」)でも、フェアトレードのチョコレートが買える。同店は27日まで、名古屋市役所西庁舎地下にも出店し、ハート形のチョコレート約10種類を販売している。

■ 1月28日毎日新聞朝刊に掲載されました

「カカオ豆生産の過酷」と題して「児童労働とチョコレート」の展示が紹介されました

2012年(平成24年)1月28日(土) 名古屋

### カカオ豆生産の過酷

バレンタインデーが近づくと、愛を込めて選んだチョコレート原料のカカオ豆の労働を解説し、支援活動をおこなっているガーナの農家についても知ることができ、児童労働と児童労働を知ることが出来る。

開催した「名古屋フェアトレード・タウン」にしよう会代表の土井ゆきさんは、「世界最大のカカオ豆輸入国・ガーナで児童労働をなくすため、成り立っていることに気づくべきです。」と訴えている。

「子ども達の現実を知って」  
名古屋で児童労働とチョコレート展

「世界と私たちの暮らしはつながっている」と訴える土井代表。名古屋市長のオアシス21のレストラン「サオナ・パール」で2月4日、イベント「フェアトレードで世界に愛を」が開かれる。

「児童労働をなくす活動をしているNGOの「ACE」(東京)は、児童労働なしチョコレートが作られるまでを造ったオランダのドキュメンタリー「トニース・コロナリ」の上映と講演会を各地で開催している。白木朋子事務局長は「フェアトレードの粉を味わってその善みを感じたり、フェアトレードのチョコレートと大衆生産のものを食べ比べたりする。フェアトレードによるコーヒーや紅茶も飲みながら参加者同士がその問題について話し合う。講師を務める「名古屋フェアトレード・タウン」にしよう会代表の土井ゆきさん(仮)は「私たちは選べることで世界を変えることができる。それをチョコレートから知って欲しい」と話している。」

【取材担当】松永佳博、竹下由佳



## ■ 1月29日中日新聞朝刊に掲載されました

フェアトレード支援拡大 東日本の女性たちの手作りハートとチョコセットも紹介され「手仕事が癒しになるだけでなく、自分たちが作った物が売れることで収入以上の喜びや自信になる。買う人にとっても目に見えない形で支援を続けることができる」と土井ゆきこのコメントが掲載されました。

2012年(平成24年)1月29日(日曜日)

# 被災者に喜び、自信

## フェアトレード支援拡大

「公正な貿易を意味し、発展途上国などの品を適正価格で買い取って生産者の生活向上を目指すフェアトレードショップで、東日本大震災の被災者が手掛けた商品を買う動きが広がっている。買い物を通じて困難に立ち向かう被災者を支えることは私たちの活動の理念そのものとして、市内の各店が工夫して商品をPRしている。(以下部弘大の東区のウイールあいち内にある「風ま(ふうま)ずい」は、ハートを二つ重ねた形の手織みのプローチや靴下形の飾りや、大福餅や宮城県産の石巻、東松島市の被災者への支援を続けている。)

### 市内各店 激励メッセージも

市内各店では、被災者への支援を続けるだけでなく、自分たちが作った物が売れることで収入以上の喜びや自信になる。買う人にとっても目に見えない形で支援を続けることができる。中村区の「JICA中(オゾン)」は、部内にある「フェアビ」は、被災者への支援を続けるだけでなく、自分たちが作った物が売れることで収入以上の喜びや自信になる。買う人にとっても目に見えない形で支援を続けることができる。中村区の「JICA中(オゾン)」は、部内にある「フェアビ」は、被災者への支援を続けるだけでなく、自分たちが作った物が売れることで収入以上の喜びや自信になる。買う人にとっても目に見えない形で支援を続けることができる。



チョコとプローチのセットを組む。中村区の「風ま(ふうま)ずい」は、被災者への支援を続けるだけでなく、自分たちが作った物が売れることで収入以上の喜びや自信になる。買う人にとっても目に見えない形で支援を続けることができる。

## ■ 「チョコと児童労働のビターな関係」

オランダのジャーナリスト トニーのドキュメンタリー映画「トニーズロンリーチョコ」を見ましたか？

1月17日 名古屋をフェアトレード・タウンにしよう会 主催で開催した上映会&トークは、ガーナから帰国したばかりのNPO法人 [ACE](http://acejapan.org/) <http://acejapan.org/>の白木朋子事務局長をお招きしてお話を伺いました。

「トニーズチョコロンリー」とは、『アフリカの奴隷労働で作られたチョコレート

を食べた罪』で?自らを訴えたオランダ人ジャーナリストのドキュメンタリー映画です。

## ■ 139年前(2002年現在)に奴隷制度は廃止された

トニーは『チョコレート産業』について書かれた本を読んだその本で、10万人の子どもたちがカカオ農園で働かされ賃金も得られず逃げ出すことも許されない、環境を知った。(この本は、『チョコレートの真実』と思われます)

## ■ その一人 カム・サミー・フェリックス 16歳の証言

「僕たちは、1日1度だけしか食事をもらえずとてもやせていました。でも働かないと殴られます 体調が悪く、働けなくても殴られました。働くことを拒否すると、夜中どこかへ連れていかれます。

ある朝、仲間の一人がいないことに気づきました。何が起きたのか聞いても 彼らは答えません。夜中に連れ出されて殺されたのです。僕はそれが事実だと証明できます。

僕たちはお互いに探し合う事を許されませんでした。お互いにコミュニケーションをとることも許されていません。家族とさえ話す事が許されていませんでした。もしそんなことをしたら処罰を受けるか、殺されます」

## ■ 違法なものを購入することも買うことも犯罪

たとえば盗まれた自転車を購入するのと同じです。銃で殺せば犯罪になるようにチョコレートに対する姿勢を変えなければたとえば、チョコレートを食べるたびに何かがおかしいと感じなければいけない。

## ■ 米国下院議員のエリオット・L・エンゲル氏の議会での証言

「この少年は、奴隷になった当時身長1メートル20センチ以下でした。その言葉を引用します。『二人がかりで自分より大きな麻袋を頭の上に載せられ急いで運ばないと殴られました。殴られるのは日常茶飯事です。転んで麻袋が落ちて誰も助けしてくれません。落とした麻袋を拾うまで何度も何度も殴られました。

## ■ トニーは児童労働の無いチョコを作った！

2005年12月29日に世界で初めての公式の奴隷労働のない「トニーチョコロンリー」が発売され、1日半で13000個売れた！これは2005年から2007年にかけて

オランダのテレビで放送されたシリーズの一部です。今でも駅やスーパーで売られています。

- 今トニーズ・チョコロンリーには「児童労働のないチョコレート」ではなく「奴隷のないチョコレートに向かう途中」と書いてあります。

トニー・チョコレートロンリーは子どもの奴隷労働・児童労働をなくし、また西アフリカの 카카오 生産農家の生活を向上させるには継続的な努力が必要であることを知っています。

西アフリカにおけるフェアトレード制度の改善のための調査研究をしているのはこの仕組みが想定していたより完璧ではなくトレーサビリティも最後まで追えるわけではないからです。

\* この映画の上映についてはACEにお問い合わせください。

- チョコに関する 風のたより は下記を参照ください。

[167号](#)

[157号](#)

[145号](#)

[144号](#)

[128号](#)